



都立高等学校職員による朝霞駐屯地部隊見学



自衛隊東京地方協力本部北地域事務所（所長 西尾3陸佐）は10月24日、板橋区に所在する都立高等学校職員による朝霞駐屯地での部隊見学を支援した。

同校は、全国で初めて「都市防災技術科」を設置しており、1年生及び2年生を対象に防災に関する実技体験（探究防災）を実施している。

本見学は、11月1日に実施された同文化祭において、災害時に使用する自衛隊装備品の展示を予定して、このことから、その事前学習の一環として今回の見学を実施したものであった。

当日は、第1施設大隊本部管理中队の支援により、自衛隊の概要説明、装備品展示（油圧ショベル、大型ドーザ、資材運搬車、水タンクトラクタ等）及び07式機動支援橋の開設訓練を見学した。その後、災害派遣における活動内容について説明を受け、中隊長以下、所属する隊員との懇談を実施した。

参加者からは、「学生にも災害時の自衛隊の活動を知ってもらいたい」「大型バスで学生の見学も実施したい」などの感想が寄せられたほか、「来年度の文化祭でも引き続き装備品の展示をお願いしたい」との要望もあった。

北地域事務所は、今後も学校側と連携し、学校教育支援や防災意識の向上を通じて、自衛隊に対する理解の深化を図っていく。

北区内の私立中学校・高等学校防災講話で自衛隊による災害派遣を紹介！



自衛隊東京地方協力本部北地域事務所（所長 西尾3陸佐）は10月29日、北区内にある私立中学校・高等学校に対し防災講話を実施した。

同中学校・高等学校での防災講話は今回が初開催であり、学校側からの依頼により、中学生には「自助・共助・公助」、高校生には「災害時の対応と震災時の災害派遣状況」という題目で実施し、当日は秋晴れの中、午前中は避難訓練、午後は防災講話や消防によるAED・消火器の操作体験など、生徒たちにとっては、充実した一日となった。

防災講話では、まず中学生に対して災害時の身を守る行動や、避難所における助け合いの精神など、具体的な行動について説明を行った。一方、高校生に対しては、自衛隊の災害派遣活動を紹介するとともに、学校近くを流れる荒川が氾濫した場合のハザードマップを用いた通学圏・生活圏における洪水浸水想定説明を行うなど、生徒の防災意識の向上を図った。

特に、防災講話の中で上映した災害派遣の動画では、生徒全員が真剣な眼差しで視聴していたことが印象的であった。

北地域事務所所長は、「今回の講話を通じて、生徒の皆さん一人ひとりが、自分の命は自分で守る」という意識を持ち、周囲と助け合う大切さを感じ取ってほしいことを嬉しく思います。災害はいつ起こるかわかりませんが、日頃からの備えと正しい知識があれば被害を最小限にすることが出来ます。今後も地域の皆様と連携しながら、防災意識の向上に努めてまいります。」と述べ、防災教育の重要性を改めて強調した。

北地域事務所は、今後とも学校側と連携し、防災意識の高揚を通じて、自衛隊に対する理解の深化を図っていく。

「2025なかの東北絆まつり」で募集広報活動を実施



自衛隊東京地方協力本部高円寺募集案内所（所長 及川2陸尉）は10月25日及び26日の2日間、中野区で開催された「2025なかの東北絆まつり」において自衛隊募集広報ブースを出展し、地域の皆様をはじめ、来場された方々への募集広報活動を実施した。

本イベントは、東日本大震災で被災された地域への継続的な復興支援を目的として震災の翌年から同区で実施されているものである。

当日は、あいくるの雨模様となったものの多くの方が会場を訪れ、2日間約500名が会場を訪れ、立ち寄り、制服試着体験を楽しむとともに配布したパンフレットや災害派遣活動紹介パネル展示などを通じて、自衛隊の任務や活動内容への理解を深めていた。

来場された方からは「災害派遣活動では、大変お世話になりました」「いつも応援しています」「自衛隊は、頼りになる心強い存在です」といった心温まる声援をいただくことができた。

また、自衛官募集相談員の方々の支援を受け、地域の皆様への丁寧な説明や相談対応を実施するなど、募集広報活動に協力をいただいた。高円寺募集案内所は、今後も地域の皆様との絆を大切に、自衛隊に対する理解の促進を図るべく様々なイベントを通じて募集広報活動を実施していく。